

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170401277		
法人名	医療法人 尚仁会		
事業所名	グループホーム「西まち」		
所在地	札幌市西区西町北8丁目1-25		
自己評価作成日	平成26年8月1日	評価結果市町村受理日	平成26年10月14日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=0170401277-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会
所在地	〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目1番地
訪問調査日	平成26年9月18日(木)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「指先から優しく」という言葉を使い、人に対しても、物に対しても相手に優しさを感じさせ、落ちついた穏やかな環境を整えるのに必要な事。優しさを伝えるということは手の指先まで使って丁寧にすることと指導している。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成16年に開設した事業所の管理者は医療現場で看護師として経験を積み重ねている。ノウハウを活かし、運営者とともに職員がゆとりを持って支援できる体制作りに力を入れてきた。厨房専属職員を配置し、献立作りから調理を賄い、さらに、男女とも育児休暇を利用するなど、職員の福利厚生も充実した職場環境を整え、職員の離職者は少なく、利用者とのなじみの関係から安定した支援ができています。管理者は利用者へのサービス向上には職員教育が第一と諷い、職員の内外の研修参加はもとより、働きながら学ぶ姿勢を推奨し、認知症の専門的な知識ばかりではなく、利用者と喜怒哀楽をともにしながら、人としての成長の場でありたいと考えている。事業所の夏祭りは町内会の回覧やポスティングで知らせ、地域から TENT を借りたり、商店からの出店もあって家族や地域からの参加者でにぎわい、相互に協力関係ができている。また、敬老会やクリスマス会には老人会のボランティアによる歌やフラダンスが披露され利用者も一緒に歌い、楽しいひと時を過ごしている。職員は利用者の尊厳を視点とし、寄り添う時間を大切にゆったりさり気なく関わり、笑顔の多い生活が伺える。家族からは感謝の言葉や職員を労う言葉が沢山寄せられている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

平成26年度 社会福祉法人 北海道社会福祉協議会

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送り前に理念を唱和し実践できるように共有している。	開設時に作り上げた理念を現在まで継承し、毎朝申し送り時に復唱し、実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会行事、総会等参加している。ホームでの行事にも参加していただいている。	町内会の清掃活動や花壇の植え込み作業には利用者と一緒に参加している。事業所の夏祭りは地域にポスティングで知らせ、地域からは TENT を借りたり、商店が出店を出すなどして楽しまれ、協力関係ができています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して内容等報告している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎の会議に参加していただき意見交換している。	運営推進会議は地域包括支援センター職員、町内会役員、家族代表などの参加を得て、定期的開催されている。包括支援センターの最近の相談状況や事業所の行事、空き情報、看取り、避難訓練などをテーマに建設的な意見交換が行われている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日々の取り組みでの困難や疑問等には積極的に連絡している。	区や市の介護保険課や保護課などとは、困難事例や確認事項の相談などで連携しながら、サービスの質の向上に取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしない。していない。ケアの方法を勉強会や研修会参加して学習している。施錠は夜間のみ。	職員は身体拘束は「しない、していない」と強い思いを持って取り組んでいる。研修や事業所内での学習会で拘束の弊害を理解し、日々のケアの中で言葉の拘束などについても検証し、不適切な言動や支援があった場合には、職員同士その場で注意し合える関係も出来ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入居者からの情報や言葉の虐待と感じ取れる言動を聴いたら即注意・指導している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を必要とする利用者が少ないため活用に向けて支援するには機会がなかなかない。研修参加はしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には時間をかけて説明・理解・納得等していただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を通して報告・意見の反映をしている。	家族の訪問頻度は高く、担当職員から利用者の近況などを報告し、コミュニケーションの時間を多くしている。事業所便り、手紙、電話、家族会での意見、要望の表出を促し、出された意見は事業所の運営に反映している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	約月2回の学集会を行いその中で学習したり報告したり意見を聞いている。	管理者は職員を大切に思い、仕事に誇りが持てるようになって欲しいと育て、働きながら目標を継続的に支援している。職員の意見や提案は管理者に伝え、反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	やりがいに繋がっているかはわからないが働きやすい職場づくりには協力してくれる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修等は少ないが外部研修には参加していただきトレーニングしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同区内の同業者同士の勉強会・食事会には参加して交流を図っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	いかに早く利用者との信頼関係を築くかとして常に密なる対応をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や申し込み等に来た時には困っていることなど話を聞き、入居する前においても何度か来所していただき関係づくりをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	なじみの場所と離れ見慣れぬ場所に来た不安を早く安心に繋がれるように対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人がいつでも声をかけてくれる様に常に寄り添い、極力名前前で声かけしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来所時には生活状況を報告し安心して頂けるよう心がけている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	最低でも月1回は家族に来所して頂き家族との時間を持てるように、請求書の支払いは現金でホームに届けていただいている。	行きつけの美容室に出掛けたり、家族の協力で墓参りを実現したり、自宅への外泊で家族と過ごす時間を作っている。また、利用者の誕生日や事業所行事には子供や孫の訪問で関係が途切れないよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	1日3回の体操や歌や歩行訓練で係わり合いをしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	年賀状を送ったり大きな行事には連絡している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	誕生日その日に祝いを1人1人に行っている。誕生日その月には本人が好きなお食事を用意している。	日常の関わりの中で利用者に寄り添い、丁寧に接し支援している。また、言葉に出来ない利用者にも行動や表情、仕草等から汲み取って支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を利用して情報を得て把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りを通して1人1人の状況を確認し合っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現状に即した介護計画を作成している。課題分析やモニタリングは全スタッフに意見を聞いて反映している。	介護計画は本人や家族からの要望を取り入れ、職員はモニタリングから全員で話し合い、現状に沿ったプランを作成している。日々のケア日誌にもプランに連動した実践状況が記録されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に沿った記録内容に指導しているが中々実践に繋がらない。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	年間計画を家族にも配布し内容を熟知していただき参加できるところは参加協力を得ている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問美容・歯科を利用している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当ホームの1階がクリニックなので定期的受診をしながら健康管理に努めている。	家族の要望で、全員が1階のクリニックをかかりつけ医にしている。受診が困難な利用者には往診で対応し、受診後は家族に報告し、職員間で情報を共有している。歯科に関しても必要時に往診で支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が看護師なので変化に気づいた場合即報告して対応してくれる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は看護師と面接し添書を持って伝えている。退院時には話し合いの場を設けていただいている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時重度化した場合の指針や家族会等で終末期や見取りに関する話題にし意識を深めてもらっている。ある時期がきたら再び話し合う。	入居時に指針に沿って重度化した場合の説明をしているが、家族会などで終末期や看取りについて意識を深めている。看取り時には利用者とともに過ごす時間を大切に、尊厳をもって命の重みを感じ、慈しみの心で支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会を通して伝え訓練をしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防火・避難訓練を町内会の方々と行っている。	避難訓練は1階クリニックや地域住民の協力を得ながら定期的に実施されている。防災器具等の点検や避難経路の確認、備蓄品も用意されている。断水や停電についても今後話し合う予定である。	事業所内の防災点検は年2回の目視に留まっている。点検チェック表を作成し、確認サインなど防災意識を高める取り組みが望まれる。また、階段踊り場の荷物は非常時において誘導の妨げになることが予想されるため、移動について検討することを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	あだ名で呼ばない。尊重が伝わる様に敬語を使い笑顔挨拶に徹している。	利用者には人生の先輩として敬う気持ちを持って関わり、人格や誇りを損ねない支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	必ず相手に尋ねて本人の思いに沿った対応をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	無理強いせず、相手の状況にあわせた対応をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	汚れた服は着せず身だしなみに気を配り髪は常に整えている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事はその人に合った食べやすく量や形を工夫している。月1回豪華食を提供。食器拭きを手伝っていただいている。	利用者は職員と談笑しながら野菜の下ごしらえや食器拭きなどを行っている。器や盛り付けに配慮し利用者の楽しみになるよう努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・バランス・水分等は状態に応じてとっていただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後には口腔ケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツを使用しているも立ち上がりができる方はトイレ誘導している。	利用者の排泄状況に合わせて、布の下着と排泄用品の組み合わせでトイレでの排泄に力を入れ、羞恥心などに配慮し、さりげなく支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に応じて早朝牛乳や手製オカラクッキーやヨーグルト等をとっていただいている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望に沿って入浴している。最低週2回は入浴している。	入浴は原則同性介助にしている。職員も一緒に湯船に入り、会話や唄を歌いながら寛いでもらっている。長湯にならないように見守り、拒否する利用者はいない。湯上がりには冷たい飲み物やアイスクリームなどを提供し、楽しみに繋げている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午後からのお昼寝を短時間にして歩行訓練をして疲れを感じていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された時点で薬の内容の確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人1人の役割が活かされるように工夫し対応している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年間計画をたて家族の協力を得て戸外への外出や地域の公園散歩等をしている。お花見・紅葉狩り・イルミネーションなど。	散歩や買い物の他にバスを借りて花見や紅葉狩り、イルミネーション見物、公園に出かけている。家族の協力で夏祭りやバーベキューの他、外食の機会もあり、利用者の食欲や、嬉しそうな表情から気分転換に繋がっていることが伺える。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理できる方には少ない金額で管理していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話のやりとりは対応している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	落ち着いて居心地よい空間として人の往来が少ない場所として配慮している。	エレベータ前を玄関と見立てている。入口には和の装飾や壁面には押し花アート、利用者の作品が掲示され季節の飾り付けなどから落ち着いた空間になっている。台所や事務室からは共用スペースの居間やトイレ、浴室の動線を見守る事が出来る。食後には利用者と職員が談笑し、寛いだ雰囲気は温かく家庭的である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	その人に合った人と共用できるように配慮して対応している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に居心地よく過ごせるように配慮している。	利用者の馴染みの家具や装飾品、思い出の品や手作りの作品でそれぞれ個性ある居室となっている。職員と利用者が一緒に整理整頓するなどして、居心地よく暮らせるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの表示をわかりやすく見やすい所に貼っている。		